

スターウェイ 株式会社

リユースできる箱と緩衝材不要の梱包術で、
物流コストの削減と環境対応の両方を実現した
環境ソリューションプロバイダー。

たとえば、家電品を修理に出した場合、大きなダンボール箱に入れられて戻ってくることが多い。その箱の中には緩衝材がごそつと入っている。箱と緩衝材は他に使い道がなく、結局、ゴミとして出すしかない。これをなんとかできないものかと思っていたら、なんとかかする仕組みをつくった企業があった。それがスターウェイだ。

「環境デリバリーパック」と名づけられた同社のサービスでは、「イースターパック」という箱を使う。古紙一〇〇%の特殊な板紙でつくられたこの箱は、プラスチック並の強度があり、一〇〇回以上繰り返し使うことができる。

状況に扶まれ、宙に浮いたような状態になる。そうすることで、衝撃を吸収する仕組みだ。ドイツ製のこのフィルムは、収縮率が約七〇〇%もあり、伸ばしてもすぐ元に戻る。しかも丈夫で破れることはほとんどなく、たとえ穴が空いても裂けることはまずないという。そのため、どんな形状のものでも無理なく固定することが可能だ。イースターパックとこの部材を組み合わせた梱包方法は、同社の特許である。二〇〇三年、イースターパックは、りそな中小企業振興財団・日刊工業新聞社共催の「第一五回中小企業優秀新技術・新製品賞」の優良賞を受賞した。

製品をこの箱の中に入れて運ぶのだが、このとき、緩衝材の代わりに使うのがフィルムに特殊ウレタンフィルムを張った独自の部材。箱の中にこの部材を一つ入れ、そこに荷物をのせる。そして、その上にもう一つ同じ部材を乗せて箱の蓋を閉める。すると荷物は一枚のフィルムにサンドイッチ

状に挟まれ、宙に浮いたような状態になる。そうすることで、衝撃を吸収する仕組みだ。ドイツ製のこのフィルムは、収縮率が約七〇〇%もあり、伸ばしてもすぐ元に戻る。しかも丈夫で破れることはほとんどなく、たとえ穴が空いても裂けることはまずないという。そのため、どんな形状のものでも無理なく固定することが可能だ。イースターパックとこの部材を組み合わせた梱包方法は、同社の特許である。二〇〇三年、イースターパックは、りそな中小企業振興財団・日刊工業新聞社共催の「第一五回中小企業優秀新技術・新製品賞」の優良賞を受賞した。

で、顧客企業は輸送費や資材費を削減できると同時に、廃棄物をなくし、環境への負荷を大幅に軽減できる。もちろんリユースできなくなつた箱は、古紙として再資源化される。また、箱は折り畳むことができるので、保管スペースを減らすことも可能だ。さらに、緩衝材を使わない簡単な方法のため、商品の梱包に要する時間も大幅に短縮することができる。

この物流手法による輸送関連コストの削減効果は、五〇%前後にもなる。これは決して同社の宣伝用うたい文句ではない。同社の顧客が、環境報告書にそうした数字を実際に記載しているのである。

環境改善とコストダウンを実現させる物流スキーム

環境デリバリーパックでは、修理品などをこの箱に入れて配送する。箱は配送時もしくは後日、同社と提携した配送業者が回収する。部材と箱を繰り返し使用すること



イースターパック。このように、下のフィルムの上に敷居を設置し、間に製品を入れ、その上からフィルムで挟むことも。